

第9回 熊野川減災協議会

会議方法 : WEB 開催

日 時 : 令和5年2月24日(金)15:00~16:00

参加者 : 別添参加名簿のとおり

開催結果報告

■議事

・【審議】規約の改定について

- 以下2点について、各機関の異議はないことを確認した。
 - ・幹事会委員に三重県県土整備部水災害対策監を追加。
 - ・西日本旅客鉄道株式会社の組織改正に伴う、協議会委員および幹事会委員における役職名の変更。

・【報告】令和4年8月4日からの大雨への対応状況

- 本年度の近畿管内の大雨への対応について報告した。
- 新潟県村上市小岩内地区では土石流災害が発生したが、継続した避難訓練や情報伝達訓練の実施していたことで適切な避難ができ、犠牲者ゼロであった。本事例を参考に、災害を忘れないために定期的な訓練が重要であることを共有した。

・【情報共有】「基礎継続」等の取組の実行について

- 取組項目のうち、「基礎継続」等の取組を中心に、各機関が取組内容を紹介した。

・【情報共有】「応用」「発展」の取組を今後進めていくための具体例など

- 取組項目のうち、「応用」「発展」の取組である No.11「コミュニティタイムラインやマイ・タイムラインの普及・促進」について、抜粋して取組イメージ・事例を共有した。

・【情報共有】その他情報提供

- 熊野川流域タイムライン等について、情報提供を行った。
- 流域タイムラインについて、本年度は直轄区間を対象としているが、来年度以降は指定区間の沿川市町や減災協議会のオブザーバーの参加を計画している。

(質疑応答)

■紀宝町 西田町長

- 「ダムの洪水調節の実施状況(資料2 P.3)」について、県管理ダムの洪水調節の実施内容について、簡潔に教えていただきたい。ダムとして洪水調節を独自に実施したのか。
→(紀南河川国道事務所 岡崎副所長)特に降雨量が多かった九頭竜川水系、淀川水系、大和川水系において、ダムの操作規則に基づいて下流への流出量をコントロールした。個々のダムではなく、水系全体で調整しながら実施した。

(主な意見)

■紀南河川国道事務所 渡邊所長

- 気候変動に伴う水害リスクの増大と、新型コロナウイルス感染症リスク等、社会情勢の変化に的確、柔軟に対応するため、前回の協議会では新たな取組方針が改定され、各機関の防災・減災力の向上に向けて推進している。
- 平成 23 年紀伊半島大水害以降、全国に先駆けて整備した水害対応タイムラインや地区タイムライン等を水平展開するといった応用、発展の取組を今後進めていき、本協議会を防災・減災が主流になる社会の実現に向けた、有意義な場としたい。

■新宮市 田岡市長

- 本協議会における「目標達成に向けた5本柱の取組」の中で、新宮市としては、「水害体験模型の展示等」のソフト対策のほか、ハード対策として、「市田川流域大規模浸水対策」に注力しているとともに、「流域での雨水貯留機能の向上」として、市田川流域の学校のグラウンドを活用した雨水貯留施設整備を実施中である。
- 和歌山県が整備中の「輪中堤」が完成すれば、長年、浸水被害に悩まされていた地域の被害軽減が期待できることから、市としても、地域住民としても、大変感謝している。
- 今後も関係機関との、より一層の連携によって、取組方針で示される項目に対して着実に取り組むことで、防災・減災対策を推進したい。

■紀宝町 西田町長

- 2月16日から開始された、国交省と気象庁の水害リスクラインと洪水キキクルの統合表示により、ワンストップで情報確認が可能になることから、適切な避難や行動につながることを期待している。
- 令和4年5月に、災害からいのちを守る防災意識社会の構築を目指した「タイムライン防災・全国ネットワーク国民会議」が発足した。タイムライン防災がより大きな国民運動となることを委員の皆様にもご賛同いただきたくとともに、当会議にご参加いただきたい。
- 今後もあらゆる災害から一人でも多くの命を守るため、ハード・ソフトの両対策に取り組んでいきたい。本協議会の取組方針についても、応用・発展させることで、水防災意識社会の構築を加速させるものであり、非常に心強く感じる。

■和歌山県 県土整備部長代理 河川・下水道局長

- 当地域は紀伊半島大水害による甚大な被害を受けたが、同時に地域内外との連携により、その難局を乗り越えた。その経験を踏まえて、昨年5月には熊野川水系ではじめて、本番さながらの総合水防演習を実施した。
- ハード整備に加えて、流域治水の考え方が重要であると認識している。
- 取組項目も多く、道半ばであるが、各構成機関と連携して、減災対策の取組を着実に実施

していきたい。

■三重県 県土整備部長代理 水災害対策監

- 三重県では昨年 10 月に、おおむね 10 年先を見据えた「強じんな美し国ビジョンみえ」を策定し、当ビジョンを着実に推進するための 5 年間の中期戦略計画「みえ元気プラン」を策定した。その中で、防災・減災、県土の強靱化を重要政策に位置付け、大規模災害への備えとして河川整備や堆積土砂の撤去、砂防堰堤の整備、河川監視カメラや水位計の整備などを進めていく。また、排水ポンプ車の配備や、災害コントロールルームの設置、実動訓練の実施など、危機管理体制の充実・強化に取り組んでいる。
- 紀伊半島大水害から 11 年余りが経過し、住民の危機意識が薄れつつある。県民一人ひとりの防災意識が向上し、地域が助け合い、行政がハード・ソフト両面の防災・減災対策に取り組み、「自助・共助・公助」の連携の輪が広がるように進めていきたい。

第9回 熊野川減災協議会(WEB 開催) 出席者名簿

新宮市長	田岡 実千年
田辺市長	真砂 充敏 〈代理出席:本宮行政局長 久畑 弘幸〉
北山村長	山口 賢二 〈代理出席:参与 藪本 幸一〉
紀宝町長	西田 健
熊野市	河上 敢二 〈代理出席:建設課長 西 喜久也〉
和歌山県 県土整備部長	福本 仁志 〈代理出席:河川・下水道局長 太田 和良〉
三重県 県土整備部長	若尾 将徳 〈代理出席:県土整備部 水災害対策監 川北 健司〉
気象庁 和歌山地方気象台長	山本 善弘
気象庁 津地方気象台長	本松 雅彦
近畿地方整備局 紀南河川国道事務所長	渡邊 泰伴
オブザーバ 電源開発 株式会社 西日本支店長	若松 光希
関西電力 株式会社 吉野水力センター所長	吉田 淳
西日本旅客鉄道株式会社 和歌山支社 地域共生室課長	高橋 貴之 〈代理出席:地域共生室課長代理 山下 篤〉



協議会の実施状況